

## エンタープライズ企業向け AI エージェントの業務実装を加速する 「コンテキストエンジニアリング」を強化

～コンテキスト設計（業務文脈設計）×フォワードデプロイ（現場実装）を一気通貫で提供する国内稀有の体制へ～

AI ソリューション事業を展開する株式会社ヘッドウォータース（本社：東京都新宿区、代表取締役：篠田庸介、以下「ヘッドウォータース」）は、AI エージェントが企業の業務を安全かつ高い再現性をもって遂行できるようにするため、動的な文脈設計技術「コンテキストエンジニアリング」の提供体制を強化しました。

文脈設計から接続、権限・ルール設計、運用・改善までを一気通貫で支援し、AI エージェントを「実験段階」から「実務の担い手」へと進化させます。

当社はこれまで RAG 精度改善を中心に、10 社以上のエンタープライズ企業へ文脈設計を提供してきました。製造業、金融、自動車・輸送業界など、複雑かつ高い正確性が求められる領域で採用が進んでいます。

### ■ 背景

2026 年は、AI エージェントの役割が「回答する AI」から「業務を完遂する AI」へと大きく転換する年です。企業が求めているのは、業務の目的や組織のルールを理解し、状況変化に応じて判断し、最後まで安全にやり切る実行力をもった AI エージェントです。

AI エージェントを実務で使えるようにするには、その AI に「何を、どの立場で、どこまで、どうやって、誰の許可で」行わせるかに加え、どんな状況・知識・制約のもとで判断し、どのように対応を変えるのかという「仕事の設計図」が必要です。

この仕事の文脈を構造化し、実行時に適切な形で適用・維持・更新する方法を体系化するのが、コンテキストエンジニアリングです。

例えば社員（働き手）が仕事をする際、目的・役割・社内ルール・権限・引き継ぎ・記録といった複数の文脈の中で判断し、状況に応じて行動を調整しながら、継続的に仕事を行います。

同じように AI を業務で機能させるには、これらの文脈を AI に動的に与え、維持し、更新し続ける設計が不可欠です。

特に、以下の要素を動的に扱うことが、業務品質の安定に直結します。

目的 (Goal) : 何を達成すべきか

役割 (Role) : どんな立場で判断すべきか

制約 (Rules) : 守るべき禁止事項・例外条件

状態 (Progress) : どこまで進み、次に何をすべきか

権限 (Permission) : アクセスしてよい情報と実行可能な操作

コンテキストエンジニアリングにより、これらの要素を状況に応じて正しく更新し、AIの行動選択へ反映させることで、エージェントは毎回同じ品質で安全に業務を遂行できます。

## ■ エンタープライズ企業が直面する課題

多くの企業で AI エージェント導入が PoC で止まる背景には、次のような課題があります。

- 本格導入への停滞：人・仕組み・安全体制が整わずスケールしない
- 運用コストの不透明化：クラウド費用・監視・例外処理が膨らむ
- データ権限の複雑さ：何を AI に見せてよいか判断できない
- RAG だけでは業務完遂に至らない
- 生産性貢献の可視化ができない

これらの課題は、文脈設計が十分に構造化されていないことに起因します。文脈が整わなければ、AI は安定的に機能しません。

## ■ コンテキストエンジニアリングを中心とした支援サービスについて

当社では、コンテキストエンジニアリングを中心に AI エージェントの安全な業務遂行体制を以下の 5 つの領域で支援します。

### 1. ビジネスプロセスとワークフロー変革

業務分析、リスク・責任分解点、AI エージェント ROI 評価組織体制と人材スキル

### 2. AI エージェント CoE、Agentic Workflow 設計、フォワードデプロイ支援

### 3. システム技術とセキュリティ

データプラットフォーム化、既存システム連携、認証・権限設計、データガバナンス

### 4. 品質保証と信頼性

業務代替基準、検証プロセス、ガードレール設計

### 5. 運用と継続改善

文書・ルール更新、ワークフロー変更時のエージェント最適化

AI エージェントの業務実装のために「業務文脈×ガバナンス×運用×エージェント基盤」という一貫貫支援のフォワードデプロイエンジニアリング（現場実装）を行う希少な体制に加えて、Microsoft、Elastic 等の

パートナーと連携し、最先端技術と深い業務理解を組み合わせ、エンタープライズ企業での業務特化型 AI エージェントの実用化と企業内定着を支えます。

## ■ コンテキストエンジニアリングとは

コンテキストエンジニアリングは、AI が状況に応じて適切な判断と行動を選択できるよう、目的・状態・ルール・制約・環境・履歴といった動的文脈を構造化し、実行時に供給し続ける技術です。

2025 年に Anthropic 社が体系化した国際的潮流であり、AI エージェント時代の基盤技術として急速に注目を集めています。

## ■ 今後について

今後、ヘッドウォータースは、従来のコンテキストエンジニアリングに求められる業務理解・責任分解・例外処理設計・監査ログなど、エージェントを動かす実務要件の複雑さに対して、業界・業務特化型の文脈設計を抽象化・再利用することで、品質を継続的に高める「動的文脈インフラ」の整備を行っていき、自律エージェントへの段階的進化設計を提供していきます。

企業が AI エージェントを長期的に業務の担い手として活用できるよう、「業務文脈×ガバナンス×運用×エージェント基盤」を一気通貫でできる希少価値を提供し、2026 年の AI エージェント業務実装元年を牽引し、企業の労働生産性向上に寄与してまいります。

以上

## ■ 参考情報

- AI 実装の世界的潮流「フォワードデプロイエンジニアリング (FDE)」と「X-Tech」を融合し、AI プロジェクトの ROI 最大化を目指す「X-Tech FDE」を独自展開  
[https://www.headwaters.co.jp/news/x-tech\\_fde.html](https://www.headwaters.co.jp/news/x-tech_fde.html)
- ヘッドウォータース、Elastic と日本マイクロソフトの 3 社共同による特別セミナーを開催～次世代 AI エージェントによる企業ナレッジ活用の最前線を解説～  
[https://www.headwaters.co.jp/news/elastic\\_seminar.html](https://www.headwaters.co.jp/news/elastic_seminar.html)

## ■ 商標について

記載されている製品名などの固有名詞は、各社の商標または登録商標です。

## ■ 会社情報

会社名：株式会社ヘッドウォータース

所在地：〒163-1304 東京都新宿区西新宿 6-5-1 新宿アイランドタワー 4 階

代表者：代表取締役 篠田庸介

設立：2005 年 11 月

URL：<https://www.headwaters.co.jp>

■ **本件のお問い合わせ**

株式会社ヘッドウォータース

メール : [info@ml.headwaters.co.jp](mailto:info@ml.headwaters.co.jp)